

ありがとうの灯中

学校便り第2号

令和6年5月15日

福井市灯明寺中学校



4月より令和6年度がスタートして、約一ヶ月が過ぎました。皆さんの様子からは日々の生活のリズムが生まれ、それぞれの新しい学年で、新しい友達・先生と毎日を一生懸命に過ごしている姿が見られます。そして、毎朝生徒玄関前では、多くの生徒たちが大きな声で挨拶を交わしていて、灯中生の誠実な姿にとっても喜びを感じています。『挨拶は心の扉を開くカギ』と言われるように、受けた側が気持ちよくなる挨拶には、本当に心の中を温かくする力があり、心ある挨拶をしてくれた人には自然と「ありがとう」の言葉が生まれてきます。不思議です。中には校門の遙か遠くから、挨拶や会釈をしてくれる人も居て、その人の心と態度に感謝をしている毎朝（私）です。本当に「ありがとう」。社会に出てからも「挨拶」は基本となります。続けてくださいね。



ところで、『仲間を大事に』。これは今月の「灯中プライド」の表題です。この前の集会（13日(月)）で、指導部長の山口先生から、『仲間』について、愛に溢れた学びの多いお話をいただきました。ノミの話からは、仲間の影響力の大きさや大切さを教わったと思います。

そして、人が一生懸命取り組んでいることや大好きなことを茶化したり、人の心を傷つけたりするようなことは絶対に認めない！ラインやSNSなどを使って、いじめや人権を阻害するようなことは絶対に許さない！などのお話がありました。4月末に行われた

『命の大切さを学ぶ教室』も含めて、これらのメッセージは皆さんの心にちゃんと響いていると思います。擦り傷は時間が経てば治りますが、心の傷は一生治らないということをやむを得ず心に留めておいてください。そして、皆さんが「学んだことを実行できる灯中生」へと成長してほしいと願います。「挨拶」を含めて皆さんの「心ある言動」を期待します。自分を支え、大きな力をくれるのはまさに『仲間』ですよ。福井市灯明寺中学校長 佐藤 勉 (Big Ben)



<集会の様子>

<命の大切さを学ぶ教室>



4月26日（金）の6時間目に宮地美代子様をお招きし、私たちの「命」がいかに大切かを学ぶ授業を行いました。2002年9月18日、宮地様のご子息である貴弘くんが交通事故に遭われ、その尊いかけがえのない命が奪われました。宮地様はそのときの様子やご遺族のお気持ちを赤裸々に話され、誰一人涙なしに聞く者は居ませんでした。事故はまさにヒューマンエラーです。自分の命も人の命も大切に守る社会を皆で作しましょう。

<母校での挨拶運動>

5月9日（木）と10日（金）の朝に母校の小学校を訪れ挨拶運動をしました。初日は雨が少し混じりましたが、2日目は天気にも恵まれ、青空の下「爽やかな挨拶運動」を母校の児童の皆さんに向けて行いました。引率された先生からは、参加した灯中生はとても良い表情で、元気一杯の挨拶をしていたとのことでした。そして、児童の皆さんもとても嬉しそうで皆が笑顔でしたと報告を受けました。やはり人は人で育ちますね。拍手！

